

「心燃やされて生きる」

ルカによる福音書 12章 22～26節

聖学院中学校・高等学校チャプレン 久保 哲哉

皆さんは、思い悩む、ということに苦しんだことはありますか。思い悩むというのは、あれこれ考えて苦しんでいる状態のことを指します。特にやっかいなのは夜ですね。明日のことについてあれこれ悩んでいるうちに、目がさえてしまって、本当は寝ないといけないうのに、眠れない。皆さんもそういう経験あるのではないのでしょうか。

私の場合、そういう悩み事に直面した場合、どうしているかという、もし、2000年前にイエス様が、今の自分が抱えている状況になったら、どうするだろうかと想像を働かせることにしています。そして、父・子・聖霊なる神の導きと、自らの直感・ひらめき・インスピレーションを信じて、祈ってからえいやと「一本の道」を決めることにしています。

もちろん、色々悩むことはあります。けれども、思いを「巡らす」ことはあっても、悩み、苦しむ、ということはグッと減ったという印象があります。さきほど「直感・ひらめき・インスピレーション」と言いましたが、このインスピレーション (Inspiration) という言葉はラテン語の「イン」という言葉と「スピリタス (Spiritus)」という言葉が合体してできた言葉だといわれます。スピリタスとはキリスト教では「神の霊」「聖霊」のことと理解することができます。

英語でいうところの「Holy Spirit」です。つまり、「聖霊」が、私たちに「イン」することで起こる「ひらめき」。これがインスピレーションということになります。このただの直感ではない。神の導きによって与えられるひらめき。インスピレーションを大切にしたいのです。ちなみに Inspire (刺激を受ける) や Inspiring (わくわくさせる・元気づける) も同じような語源といわれます。

それで、今、聖書科で課している教会礼拝レポートを思い出してもらいたいのですけれども、あそこで紹介したペンテコステ (使徒言行録に記された教会誕生) の出来事は、弟子たちに聖霊が降り、ホーリー・スピリットがインした状態で起こったのです。そして、聖霊の力によって刺激をうけて、心燃やされ、インスパイアされた出来事なんですよ。当時の弟子たちはそれまで、様々な思い悩みがありました。けれども、聖霊が降ったことで、心が燃やされて、これに打ち勝ち、数々の壁を乗り越えて、エルサレムからローマにまでキリスト教をただ一筋に伝えることができました。

私たちが日々、様々な思い悩みがあります。また、乗り越えるべき数々の壁があります

が、聖霊が私たちの内に働いてくださればイエスの弟子達のように、進み行くことができますのです。

そして、イエス様は言うのです。烏（カラス）のことを考えてみなさい。種も蒔かず、刈り入れもしない。でも神は烏（カラス）を養ってくださる。君たちは、烏よりもどれほど価値があることか。あなたはかけがえのない存在。大切な存在。オンリーワンだ。もし着るなかったら必ず着せる。もし食べ物がなかったら必ず与える。だから大丈夫。オンリーワンである君が困っているのを神は絶対に見捨てない。だから、心配するな。恐れるな。というのですね。

思い煩いとは、思いがあちこち行って、苦しむことでしたよね。だから、絶対に神の守りの内にいるから大丈夫、というイエスが教えてくださった一本の道が見えていると、私たちの思いがあちこち行かないのです。だから、苦しくないのですね。

さあ、コロナ禍にあって、思い悩むことの多い日々です。イエス様からいただいた安心を胸に、心定められて日々を過ごしたいですね。

2021年9月18日